

2021(令和3)年度 悠久山栄養調理専門学校 事業計画と経営方針

2021.3 計画 2022.3 評価

現状と課題

令和元年度の本校の資金収支は黒字であったが、平成 29 年度以来事業活動収支は赤字が連続している。これは平成 28 年度初からの入学人数の減少（平成 27 年度の広報活動の効果があがらなかった）に大きな誘因がある。加えて、人件費支出の内容に課題が大きい。令和 2 年度決算は資金収支の赤字が見込まれる。在学者数の減少によるものである。

したがって最も喫緊の課題は「学生確保」である。そのための広報活動もさることながら、やはり高等教育機関として「信頼される学校づくり」、「実際の教育課程が良質であり、地域の信託に応えること」が重要となる。

風聞では「高校の先生は専門学校より大学を勧める」あるいは「長岡よりも新潟市など都会に行きたい」など、本校にとっては不利なこともあるようだ。

しかし、創立 50 周年の節目を迎える本校の歴史的価値を踏まえ、新しい時代の要請に応える学校経営並びに運営の改善に取り組んでいきたい。

学校関係者評価委員会での示唆も踏まえ、以下に来年度事業計画の概略を記す。

事業計画 重点課題

I 学生確保 充足率の向上

(1) 2022 年度初新入学生の増加

- ・教室環境の向上 入りたくなる教室へ
- ・学生募集活動の質的向上 小中学生も視野に入れる
- ・春と秋に高校訪問 ハローワーク委託の増員を目指す

(2) 2021 年度中の OC 参加数の増加

- ・よい授業と OC を地道に展開し口コミの向上を図る 学生による出身校訪問など
- ・高校訪問と中高への啓発資料送付 スクールガイドの早期郵送
- ・小中学生対象のイベントの質的向上 料理教室 食育教室など

(3) 退学者数の減少

- ・教育相談、キャリア面談の定例化
- ・学生理解の向上 組織的対応

II 適切な教育課程の編成と実施および検証

(1) 年間予定議題に基づいた職員会議、そのための運営委員会の質的向上

- ・年間の議題一覧表に基づく組織的運営

(2) 各科と主任会議を並行した協議により教育課程の適切な編成、実施、検証

- ・指導と評価の一体化に基づくシラバスの改善と展開
- ・学校関係者評価委員会の適切な運営

(3) 教職員研修の充実 OJT スポット 学外 等

- ・若年層の外部委託研修 希望に基づく学外研修
- ・教育学や指導課程、評価等に関する初任者研修
- ・職員会議の時間を活用した、啓発的研修

III 信頼される学校づくり

(1) 専門性を生かした地域への啓発、貢献活動

- ・各種イベント等への協力 その際の広報活動展開
- (2) 学校関係者評価委員会等の実施 示唆の活用
 - ・年2回 委員会の開催 教育課程改善に活用
 - ・同窓会との協議を行い協力を依頼する
- (3) 教員面談の実施 ライフサイクルに基づくラインケア
 - ・年3回の定期面談のほか適宜個人面談を設定
 - ・主任層対象のラインケア研修 OJTにより研修
- (4) 適切な情報発信 情報公開
 - ・HPの充実 SNSの活用 更新 情報公開

事業計画の自己評価計画

	評価項目	評価基準	状 況	期 末 評 価
(1)	学生確保 充足率の向上			
	①2021 年度新入生数の増加	80 人以上A 65人以上B 45人以上C 未満D		
	②OC参加数の増加 入学可能者 OC 参加実数	125 人以上 A 110 人以上 B 100 人以上 C 未満 D		
	③退学者数の減少	2 人までA 4 人までB 6 人 までC それ以上D		
(2)	適切な教育課程の編成と実施			
	①分かりやすいシラバスと授業 展開	シラバスの改善が達成 A 8割なされる B それ以下 C		
	②形成的評価を評定に反映 する	形成的評価が達成 A 8割なされる B それ以下 C		
	③月例でテーマを決め、研修 の時間を設ける 職員会議の 時間を活用する	12 回実施(毎月) A 10回以上 B 7回以上 C それ以下 D		
(3)	信頼される学校づくり			
	①食育教室・保護者食事会の 効果的な実施	参加者 32 名以上A 28 名 以上B 24 名以上C 未満D		
	②保護者給食試食の実施 栄 9回 専 6回 調理 6回 年間 21 回給食あり	参加者のべ数160 以上 A 130 以上 B 100 以上 C 未満 D		
	③SNS等ICT 関連の情報発信 に力を入れる 各メディアに分担を細分化 更新頻度の安定 適切な間隔	教職員の自己評価を4点満 点でとる 平均点が3.6以上 A 平均点が3.2 以上 B 平均点が2.5以上 C 未満 D		